

目指せ！究極の話し合い

自分の意見を伝え、相手の意見を聞き、肯定し、さらに意見を出し合って先に進める。誰かと話すことで拓ける世界があるからこそ、様々な意見をもつ友達が集まる学級での話し合い活動の充実は重要！演劇的手法を用いた活動です。

～役どころの例～

Aさん：発言するときには挙手をする

うなずきながら意見を聞く

Bさん：人の話をさえぎる、大きすぎる声で話す

Cさん：小さい声で、意見を求められても断る

Dさん：意見を長く、感情的に話す

Eさん：相手の意見を全否定する

Fさん：落ち着いて話す、意見を比較する



中央に話し合いをするキャストが座り、それを囲むようにほかの生徒が並びます。

学級での生活において「話し合ってより良いクラスを作る」ということは不可欠ですが、誰かが進めてくれるだろう...と引っ込み思案になってしまう生徒も多いです。そこで取り入れたのが、「よくない話し合いの様子」を客観的に見てみるという活動です。7名の「キャスト」がそれぞれ役柄をもち、10分間模擬話し合いを行います（もちろん、話が全くかみ合わない話し合いになります）。ほかの生徒たちはその様子を見て、自分の話し合いに対する参加の仕方はどの役柄に近いか考えます。

演劇的手法は、自分自身を客観的にとらえるのに効果的。滑稽な話し合い風景に対して笑いがおこる中、「自分の話し合いに参加する姿勢は、あまりよくなかったのかも」と気づき、改めて考え直す機会になった生徒も多かったようです。生徒の感想をいくつかご紹介します。

「相手のことも考えて、意見をもって発言することが話し合いでは必要だと思った。」

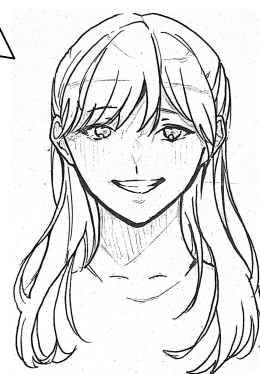
「まるで自分を見ているようだった。意見の伝え方を見直したいと思った。」

「もう一度、話し合いの仕方を見直したほうがいいなと思いました。」

「全員感情的にならずに明るく爽やかに話すとうい話し合いになる。」

「まずは人の意見をしっかりと聞き、それから自分の意見もしっかりと伝えることが大切だと、改めて思った。」

「自分の意見を具体的に話すのは大事ななと思いました。」



お互いの作品を褒め合おう

生徒同士でお互いの作品の良い点を見つけ、自信をもたせ、自己肯定感の向上を目指しました。

春は昼。桜の花びらがひらひらと風とともに、散っていく。
夏は夜。祭りの中に花火の光が、きらきらと辺りを照らしている。
秋は夕方。日が降りて、部屋の紅葉とともに風が差し込み、季節を感じさせる。
冬は朝。窓の外を見ると、一面に広がる真っ白な雪は地面を隠している。
それを照らす朝日もまたいい。

生徒の作品

ひらひらとか私は思いつかなかった

季節の特徴を表現していてよかった

コメント

国語科の授業で自分流枕草子を作成した。国語科では教材のまとめ活動の作文等になると、お互いに読む活動をして、意見交流が難しい一面があります。

そのため今回の教材のまとめの活動では、生徒それぞれが、お互いの作品の良い点を見つけやすい課題を設定しました。

一人一人の感性を枕草子の文体やリズムを基にしながら、自分流枕草子を作成しました。その後、スクールタクトを活用して、お互いの作品のよい点を見つける活動をしました。お互いの良い点を褒め合うことで生徒は自分の作品に自信を持つことや、表現することへの安心感につながりました。

今後も、国語科で生徒同士で褒め合う活動をととして、一人一人の自己効力感の向上につなげていきます。



07

当番活動で一人一役を与えることで、「クラスの一員である」「みんなの役に立っている」という気持ちを持たせます。さらに、活動を終え、全員が名前の横にあるマグネットを移動させるとメッセージが見えるようにしました。全員が協力することでメッセージが現れるようにした所がポイントです。

名前がここにあります。

2年5組

一人ひとりと当番表

No	名前	担当
1	スズキジュル	びつぽのめをみる、あしひかにさんかひにきする、あまふりてのう
2		きんぎょをみる、はなをみる
3		
4	藤村人	はなこうのうみあつてきいてく
5		
6		
7	くぼり	くぼりBOXのめをみる、はな
8		
9		
10		
11	ひろひさ	いづつしつてく、ならはてをいります。
12		
13		
14	藤井人	しめようのめ、きんぎょのめをみる。
15		
16	電氣	きんぎょをついてあつてみる。
17		
18	あみだ	うにやうにきんぎょのめをみる、あみだをみる。
19		
20		
21	赤手い	きんぎょやきんぎょのうにのめをみる
22		
23	松田のめ	うに、きんぎょをみる、あまふりてにきんぎょ、そうをみる。
24		
25	夢心	あまふりてをみる、しめようのめ。
26		
27	わきあきのめ	きんぎょのめをみる、あまふりてにきんぎょ、あまふりてにきんぎょ。

[illegible]

見た目は、ふつうの当番表です。

活動を終えて、マグネットを移動すると、
担任からのメッセージがでできます！

年度当初から一人一役は定着していました。2年生担任としてさらに工夫したいと思い、「きょうも一日おしごとありがとう あしたもえがおでがんばろう」というメッセージを考えました。全員が活動を完了しないと文が完成しないので、責任をもって、当番活動を行うようになりました。また、友達同士で声を掛け合い、協力する姿勢も見られるようになりました。欠席の児童がいたら代わりに行う児童もいて、楽しそうに活動してくれます。



自尊感情を高める「写真×価値語」

児童が頑張っている場面や友だちと協力している場面等の輝いている瞬間を写真で撮り、掲示しています。児童は、先生から大切にされている価値ある存在だと感じ、自尊感情が高まると考えられます。



児童の輝く瞬間はいっぱい

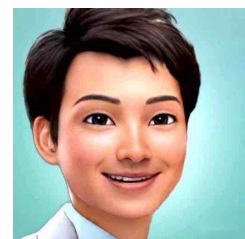


自分の姿を客観視できる

私の学級には、自分の良さを見つけることができない児童がいました。友達と自分を比べていたり、自分の短所ばかりに注目してしまったりと、自尊感情が低いように感じていました。そこで、自分を客観的に見ることができる写真を使って、自分の良さに気付けるように取り組んだのが「写真×価値語」です。

学校生活の中で、児童が輝く瞬間は、たくさんあります。友達と協力して課題に取り組んでいたり、細かい所まで掃除をしていたり。その瞬間を見逃さずに、写真を撮り、「2人で力を合わせられたね」「クラスがピカピカでみんな笑顔」など、児童の行動を価値づける言葉を添えて、写真を掲示するようにしました。そうすると、朝や休み時間に写真を見て、「これやって、よかったな」と言っている姿が見られました。また、この取り組みを始めてから、私自身、児童一人一人の良さを、より多く見つけられるようになりました。そして、その良さを伝えることで、学級の雰囲気は温かくなることも実感しました。

これからも、直接の言葉かけに加えて、「写真×価値語」の取組を続けていき、児童の自尊感情を高められるようにしていきたいです。



友達の『きらり』見つけたよ！

友達の頑張っているところや、してもらって嬉しかったことを見つけ、児童相互に伝え合うことにより、自尊感情や自己有用感を高められると考えます。



見つけたよポストを設置し、見つけるたびに書いて投函します。



更新するたびに、「自分のことが書いてあるかな？」や、自分が書いたきらりが貼られているか、楽しみに見えています。

私の学級は、個別指導や配慮が必要な児童がいました。その児童は、自己肯定感がとても低いことがアンケートで分かりました。「自分には良いところがない。」「自分が好きではない」と思っていることが多い傾向が見られたため、まずは自分の良さを知ってもらいたいと考えました。

児童は、『きらり』を更新すると、真っ先にチェックしに行きます。自分のことが書いてあると、笑顔になり嬉しそうでした。また、周囲の児童も、友達の良いところや頑張りに目を向けるようになりました。また、『きらり』に書いてある行動を、「私も！僕も！」と真似するようになりました。

このように、毎日の学校生活の中で、お互いの良さや頑張りに気付き、認め合うことで、自分の良さや、「自分はみんなの役に立てているんだ。」と感ずることができると思っています。また、掲示だけでなく、担任から直接全体へ、または、担任から本人へ直接伝えてあげることも、大切だと考えます。そうすることで、自尊感情や自己有用感、自己受容感を少しでも高めていけるのではないかと考えました。

